

『音楽学』書式の原則

『音楽学』編集委員会では第47巻1号（2001年度刊行）より、書式について統一をはかることにしました。学術論文の書式には言語や分野によって様々な方式があり、絶対的な基準が存在するわけではありませんが、一つの学術誌のなかでは書式の統一をはかる必要があります。執筆者は出来る限りこの「書式の原則」に則ってください。改正に際して、論文の基本構成、引用文献等の表記に関する説明を加筆するとともに、記載例を追記しました。

[2017年11月20日 一部改正]

ここでは全角スペースは□、半角スペースは_で表します。

2017□*Journal_of_the_Musicological_Society_of_Japan_*は、実際には
2017 *Journal of the Musicological Society of Japan* となります。

1 論文の基本構成（「研究と報告」もこれに準じる）

- 和文による論文の基本構成は以下の通り（*印で挟んだ部分は必要がなければ省略可）。

和文タイトル *——副題——*（副題を2倍ダッシュで囲む）

欧文タイトル *:_副題*

本文

注

引用文献

参照楽譜

参照音源

- 欧文による論文の場合は、欧文タイトル、和文タイトルの順とする。それ以外は和文による論文の基本構成と同じ。
- 原稿には、ページ下中央にページ数を記載する。
- 和文要旨ならびに欧文要旨は、本文とは別ファイルにまとめ、以下を記す。

【別紙1】和文タイトル・和文要旨

【別紙2】欧文タイトル・欧文要旨

- 執筆者名は、査読の際に伏せるため本文ならびに要旨には記さず、別のファイルにタイトルとともに日本語と欧語で記して添付する。執筆者姓名の順は各言語の順序に従い、姓はすべて大文字で記す。

例1 伊澤修二 IZAWA Shuji

例2 クラーラ・ヨゼフィーネ・ヴィーク＝シューマン Clara Josephine WIECK-SCHUMANN

2 書評・紹介の基本構成

- 書評・紹介の基本構成は以下の通り。*印で挟んだ部分は必要がなければ省略可。

書誌データ

本文

参考文献

執筆者姓名（右寄せ・ゴシック体）

- ・ 書誌データ

著者名または編者名（姓名の後に日本語で「著」「編」等を記す）

書名

和書の場合は『 』の中に入れ、洋書の場合はイタリックにする。

和書の副題を表す2倍ダッシュは副題の前のみとする。

（出版地：出版社，出版年月日，ページ数，価格，ISBN）

出版地の後にコロンを入れる（和書は全角，洋書は半角）

出版地（都市名）が複数ある場合は主要なものを記す。

洋書は出版年のみを記載する。

ページ数は半角を用い、対象書の記載に準じて記す。CiNii (<http://ci.nii.ac.jp/books/>)の記載が参考となる。

例 1	（和書）	277+xvi 頁
例 2	（和書）	v+370 頁
例 3	（洋書）	xx+_246_pages
例 4	（洋書）	xxxiii+_583_Seiten

価格は和書の場合には「税抜き価格+税」とし、洋書の場合は価格のみを記す。

例 5	¥3,000+ 税
例 6	£70
例 7	\$120.00

- ・ 和書の書誌データ記載例

塚田健一著

『アフリカ音楽学の挑戦——伝統と変容の音楽民族誌』

（京都：世界思想社，2014年2月28日，図版4+x+408頁，¥5,800+税，ISBN978-4-7907-1617-4）

周東美材著

『童謡の近代——メディアの変容と子ども文化』（岩波現代全書 076）

（東京：岩波書店，2015年10月21日，viii+277頁，¥2,500+税，ISBN978-4-00-029176-7）

- ・ 洋書の書誌データ記載例

Suzel Ana Reily, Katherine Brucher 編

Brass Bands of the World: Militarism, Colonial Legacies, and Local Music Making

(Surrey; Burlington: Ashgate, 2013, xx+_246_pages, £95.00, ISBN978-1-4094-4422-0)

- ・ 原稿には、ページ下中央にページ数を記載する。

3 文字等の表記

- ・ 文献の引用・固有名詞などの特殊な場合をのぞき、現代仮名遣いと常用漢字を使用する。

- ・ 主要な人名は初出時にフルネームで記し、原綴と生没年を併記する。

例 1 フランシス・プーランク_Francis Poulenc (1899~1963) は…

- ・ 外国語のカタカナ書きは、論文中で統一されている限り特殊な表記も差し支えない。

- 数字は原則としてアラビア数字を用いる。ただし慣用語，固有名詞，度量的意味の薄いものには漢数字を用いてもよい。和文中のアラビア数字は1桁は全角，2桁以上は半角を用いる。文献表や文献引用箇所を示すページ数については半角を用いる。
- 同じ語の表記は原則として統一する。例えば，以下のような語は表記の混在が起こりやすいので，注意が必要。「～のなかで／～の中で」「～のとおり／～の通り」「できる／出来る」「わかる／分かる」「たしかに／確かに」等。
- 各種記号の使用法については「書式の原則」最終ページに示した表を参照のこと。
- ピリオドの後には半角スペースを挿入する。

例 2 J. _S. _バツハ

例 3 ピアノ協奏曲第21番ハ長調 K. _467

4 本文における引用文献・参照資料の提示方法

- 本文中で文献を引用または参照する場合は，言及した直後に著者姓，発行年，参照ページ等の書誌情報を丸括弧でくくり，本文に挿入する（例1）。著者姓と発行年の間は半角スペース，発行年とページ数の間は半角コロンと半角スペースとする。丸括弧は，言及文献の和洋を問わず全角で入力する。

例 1 (Dahlhaus_1983:_277)

(末吉_2000:_24)

- 文中に著者姓があらわれる場合には，丸括弧内で再録（例2 a）せずに，例2 bのように記す。

例 2 a 柴田（柴田_1978:_29-30），小塩（小塩_1992:_86-87）に見られるように，

例 2 b 柴田（1978:_29-30），小塩（1992:_86-87）に見られるように，

- 文中で執筆者の著作を指示する場合，査読に際して執筆者名が判明しないよう，「拙著」「拙稿」ではなく執筆者の姓で記す。
- 複数巻からなる文献から引用箇所を示す場合，例3のように，巻号の後にコロンを挿入し，ページ番号を示す。

例 3 (Kusnierek_1992,_3:_125)

(勝田_1982,_2:_963)

- 参照文献として巻号そのものを挙げる場合には，例4のように，「vol.」あるいは「巻」等を挿入して，ページ数を示す場合との混同をさける。

例 4 (Pasler_1995,_vol._2)

(後藤_1991,_第4巻)

- 参照ページが複数巻にわたる場合には，例5のように，巻と巻をセミコロンで分ける。

例 5 (Pasler_1995,_2:_26,_35;_3:_50-53)

(角倉_1997,_1:_141;_4:_330,_450)

- 頻りに引用する文献を略号で示すなどの工夫は，慣例にしたがって適宜行ってよい。その際には，「引用文献」の冒頭に「文献略号一覧」を付す。

5 本文における引用

- ・ 短い引用は鍵括弧を使う。
- ・ 長い引用は独立した段落とし、前後の段落とは1行空けて、全角2文字下げる。

6 注の付け方

- ・ 投稿時には後注方式で執筆する（本誌掲載のための組版の時点で、音楽之友社編集部において脚注方式に変換する）。
- ・ 注記番号にはアラビア数字を用い、番号のみを当該箇所の上肩に記す（組版の時点で所定の方式に変換する）。

例1 The means by which the traditional Western composers have attempted to communicate with their audience have been discussed at length by Eduard Hanslick,² Heinrich Schenker,³ Suzanne Langer,⁴ and Leonard Meyer,⁵ to name but a few.

例2 「音場は、温度などの環境変化によって常に変動し、また騒音信号も常に定常的とは限らない¹⁶。」

- ・ 注で書誌情報を詳しく記述する方式は避け、参照した文献の詳しい書誌情報は、論文の最後に「引用文献」としてまとめる。
- ・ 注のなかで書誌情報に言及する必要がある場合は、本文と同様に丸括弧方式で言及する。

7 引用文献・参考文献・参照資料の書式

- ・ 日本語文献（資料）は著者姓の五十音順、欧文文献（資料）は著者姓のアルファベット順に、それぞれ配列する。
- ・ インターネットを通じて文献等を引用・参照した場合には、その情報を明示する。

（1）日本語文献

単行書

〈基本例〉著（編）者名□刊行年□『書名』（叢書情報等）□刊行地：刊行所〔収録情報等〕

例1 林謙三□1964□『正倉院楽器の研究』□東京：風間書店

例2 今谷和徳，井上さつき□2010□『フランス音楽史』□東京：春秋社

例3 秀松軒（編）□元禄 16（1703）□『松の葉』□京都：井筒屋庄兵衛，万木治兵衛〔復刻版□浅野健二（校注）□1959□『中世近世歌謡集』（日本古典文学大系 44）341-530□東京：岩波書店〕

例4 角倉一朗，他（編）□1986□『音楽と音楽学——服部幸三先生還暦記念論文集』□東京：音楽之友社

- 例5 フェルド, スティーブン□1988□『鳥になった少年——カルリ社会における音・神話・象徴』(テオリア叢書) □山口修, 他(訳) □東京: 平凡社
- 例6 ミドルトン, リチャード□2011□「序章——音楽研究と文化の思想」『音楽のカルチュラル・スタディーズ』□マーティン・クレントン, トレヴァー・ハーバート, リチャード・ミドルトン(編著) 1-18□若尾裕, 卜田隆嗣, 田中慎一郎, 原真理子, 三宅博子(訳) □東京: アルテスパブリッシング
- 例7 野平一郎□2001□「武満徹のピアノ音楽」『武満徹 音の河のゆくえ』□長木誠司, 樋口隆一(編著) 68-83□東京: 平凡社

雑誌等

- 近年定期刊行物が増えているため、発行者名を付すこととする。ただし本誌『音楽学』や発行者名が明白な場合については、発行者名(日本音楽学会など)を省いてよい。

〈基本例〉著者名□刊行年□「論文名」□発行者名『雑誌名/紀要名』巻号: _ページ

- 例8 林光□1991□「創造と日常のあいだ——バッハ・モーツァルト・宮澤賢治」□音楽教育の会『音楽教育』325: _7-20
- 例9 相沢陸奥男□1954□「音楽学の成立並に各分野の関連に就て」『音楽学』第1巻1号: _7-20
- 例10 角倉一朗□2000□「20世紀のバッハ研究」『東京藝術大学音楽学部紀要』第26集: _47-65

新聞等

〈基本例〉著者名□刊行年□「記事タイトル」『新聞名 必要に応じて地域版名』掲載日付と朝夕刊の別や版: _ページ

- 例11 谷村晃□1961□「ヒュッシュの枯淡な味」『朝日新聞』1961年12月5日□大阪本社版夕刊: _5

- インターネットを通じて定期刊行物を引用・参照した場合

- 例12 著者不明□2008□「慶応150年式典に天皇, 皇后両陛下」『朝日新聞』2008年11月9日朝刊: _社会面 (『聞蔵Ⅱビジュアル』<http://database.asahi.com/>□2017年2月7日閲覧)

(2) 欧文文献

- 文献のタイトル表記は以下の原則に従って記述する。

- 英語 タイトルの最初の文字, および全ての名詞, 動詞, 形容詞, 副詞の頭文字は大文字とし, その他は小文字とする。
- 仏語 タイトルの最初の文字および固有名詞の頭文字は大文字とし, その他は全て小文字とする。
- 独語 タイトルの最初の文字, および全ての名詞の頭文字を大文字にする。
- 他の言語 ローマ字に転写したアラビア語, ロシア語などは当該言語の習慣に従う。

単行書

〈基本例〉著者姓, _名. _刊行年. _書名. _刊行地: _刊行所. [必要に応じて翻訳書情報等]

- 例13 Small, Christopher. 1998. *Musicking: The Meanings of Performing and Listening*. Hanover, N. H.: University Press of New England. [スモール, クリストファー □2011 □『ミュージッキング——音楽は「行為」である』 □野澤豊一, 西島千尋 (訳) □東京: 水声社]
- 例14 Blum, Stephen, Philip V. Bohlman, and Daniel M. Neuman, eds. 1993. *Ethnomusicology and Modern Music History*. Urbana: University of Illinois.

雑誌等

〈基本例〉 著者姓, 名. 刊行年. “論文名,” 雑誌・紀要名. 巻号: 論文全体のページ.

- 例15 Cummings, Paul. 2016. “The Pivotal Role of Hans Richter in the London Wagner Festival of 1877,” *Musical Quarterly*. 98, no. 4: 395-447.
- 例16 Shelemay, Kay Kaufman. 1980. “Historical Ethnomusicology: Reconstructing Falasha Liturgical History,” *Ethnomusicology*. 24, no. 1: 233-258.

- ・ 欧文献の表記方法については、下記の手引き書等を必要に応じて参考にしてもよい。

The University of Chicago Press Staff. 2010. *The Chicago Manual of Style*. 16th edition, Chicago: The University of Chicago Press.

Kate L. Turabian. 2007. *A Manual for Writers of Research Papers, Theses, and Dissertations: Chicago Style for Students and Researchers*. 8th edition. Chicago: The University of Chicago Press.

ケイト・L・トゥラビアン 2012 『シカゴ・スタイル——研究論文執筆マニュアル』 沼口隆, 沼口好雄 (訳) 東京: 慶應義塾大学出版会

- ・ 英語以外の文献表記については、上記の手引き書を参考にし、適切な方法を執筆者が選択してもよい。

(3) 視聴覚資料

- ・ 下記の例を参考にし、CD・レコード名、曲名、演奏者名、レーベル名、CD・レコード番号等を表示する。DVD等もこれに準じる。

例17 『雅楽大系 器楽編』 □田辺尚雄, 芝祐泰 (監修解説) □VICTOR, SJ-3002

例18 a Brahms, Johannes. *Piano Concerto No. 2 in B flat major, Op. 83*. Vladimir Ashkenazy, Zubin Mehta, The London Symphony Orchestra. Decca, CS_6539.

例18 b *Johannes Brahms, Piano Concerto No. 2 in B flat major, Op. 83*. Vladimir Ashkenazy, Zubin Mehta, The London Symphony Orchestra. Decca, CS_6539.

例19 『インスブルックよ、さらば』 □ロンドン中世アンサンブル, ポリドール, POCL_3168

例20 『ジョルジュ・ドン——日本最後の「ボレロ」』 □モーリス・ベジャール (構成), ジョルジュ・ドン他 (舞踊) □新書館, DD01-1001

- ・ インターネットを通じて録音や録画を視聴した場合

例21 林広守 (作曲) □《君が代》 □辻順治 (指揮), 陸軍戸山学校軍楽隊 □ビクター, 52084, 1932-01 (『国立国会図書館デジタルコレクション 歴史的音源』 □ <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/3579872> □2016年3月31日視聴)

(4) 楽譜

- 下記の例を参考にして、作曲者名、曲名、編者・校訂者名、刊行年、曲（集）名等を表示する。

例22 山田松黒（編）□安永8（1779）□『箏曲大意抄』全6冊□名古屋：尾張書肆

例23 Verdi, Giuseppe. *Rigoletto: Melodrama in Three Acts by Francesco Maria Piave*. Martin Chusid ed. *The Works of Giuseppe Verdi. ser. 1, Operas.* Chicago: University of Chicago Press, Milan: G. Ricordi, 1982.

(5) ウェブサイト

- 下記の例を参考にして、著者、発表年、ページ名、ウェブサイト全体の名称、アドレス、閲覧年月日等を表示する。

例24 東京大学附属図書館□[2003] □「博覧会関係資料（常設展2003年4月～6月）
http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/tenjikai/josetsu/2003_04-06/□（2015年12月31日閲覧）

例25 著者・発表年不明□「東洋汽船北米航路汽船発着表」（『20世紀時刻表歴史館』ウェブサイト内）□http://www.tt-museum.jp/taiyo_0030_tyk1924.html□（2016年4月1日閲覧）

8 引用楽譜・図版・写真等について

- 譜例や図表、写真については、「譜例1」「図1」「表1」等の番号とキャプションをつける。番号とキャプションは、譜例等の前に提示する。

例26 表1 □『音楽学』論文等の掲載数（2012年度～2016年度）

	62巻(2016)	61巻(2015)	60巻(2014)	59巻(2013)	58巻(2012)
論文	5	3	10	5	5
研究と報告	0	0	0	1	0
書評	14	10	15	11	12
紹介	3	1	1	0	0

- 著作権表示が必要な楽譜等を使用する場合は、必ず該当箇所に明示する。著作権表示が必要か否かの判断や、それに伴う出版社や著作権者との手続き等は、執筆者本人が行う。その際『音楽学』が学術刊行物であること、紙媒体の冊子体で出版されること、出版後1年でウェブ上でも公開されることを伝えた上で、許諾を得る。著作権使用料が派生した場合には執筆者の自己負担とする。

9 各種記号の使用法				
名称	記号	用法	例	備考
中黒	□	名詞の並列	東洋・西洋	
ピリオド	.	1. 欧文単語の省略 2. 名前の省略	ed. _ J. _S. _バッハ	ピリオドの後に半角スペースを挿入。全角記号の場合にはスペースは不要。
傍点	・	特に力点を置く字句		
ダブル引用符	“ ”	欧文引用文		
角括弧またはブラケット	[]	1. 引用文への補足・修正 2. 書誌情報の補足		和文では全角で表示
丸括弧またはパーレン	()	補足的な説明		和文では全角で表示
鍵括弧	「 」	1. 和文引用文 2. 雑誌論文等の和題目 3. 強調		
二重鍵括弧	『 』	1. 「 」内での引用文 2. 和書名, 和雑誌名	『音楽学』第1巻1号	
二重山括弧	《 》	作品名	《カンタータ第82番: 我は満ち足り Ich habe genug》(BWV 82)	
ハイフン	-	1. 欧文の単語の分かち書き 2. 欧文中, 数字で範囲を示す 3. 文献のページの範囲を示す		
二重ハイフン	=	外国語の固有名詞の分節	ジャン=ジャック	欧綴ではハイフン Jean-Jacques
波ダッシュ	～	和文中, 数字で範囲を示す	1770～1827	
二倍ダッシュ	——	1. 挿入句 2. 和書の副題を示す		全角2字分使用
リーダー	……	中略		全角2字分使用 (1字分に3点)
ルビ		ふりがな (漢字の上に)	『音楽学』編集 <small>おんがくがく</small> <small>へんしゅう</small>	